

活動レポート

防災委員会

市民への災害情報を考える

— 第12回防災セミナー開催報告 —

2007年(平成19年)2月16日(金)に寒地土木研究所講堂にて、第12回防災セミナーを開催しましたので報告します。

今回は、「都市型災害に備えて — 市民への災害情報を考える —」と題して、市民に対して災害情報を伝える第一線の間でご活躍中であり、財団法人日本気象協会北海道支社の松岡直基氏、北海道総務部危機対策局防災消防課の高木伸氏をお招きしてご講演をいただきました。

松岡講師は、災害に結びつく気象情報の伝達の最前線の間でご活躍されており、市民のみならず防災の専門家に対する気象情報提供の第一人者であります。高木講師は、北海道における防災情報ネットワークの第一人者であり、行政の持つ災害情報を市民に対して伝達するための災害情報伝達システムをご担当されております。

■講演1 松岡講師 講演概要

松岡講師には「複合型災害における災害情報について — 気象災害と気象情報の課題 —」と題し、気象情報提供者の立場から見た様々な課題について講演いただきました。

まず初めに、これから着目すべき災害として複数の災害がほぼ同時に発生する「複合型災害」について紹介されました。1944年(昭和19年)の東南海地震とその翌年の台風、1952年(昭和27年)十勝沖地震の際の流水と津波の複合、2004年(平成16年)中越地震後の大雪など、複合型災害が実際に発生した事例をあげ、国交省中部地方整備局では、2006年度(平成18年度)に地震と水害の複合型災害を想定した防災実働訓練がすでに行われていることを紹介されました。複合型災害は、個々の災害のかけ算とな

ること、発災期が長期間におよび長期戦となるため、後方支援が重要になること等を示唆されました。

次に、北海道の気象災害として2006年(平成18年)の佐呂間町の竜巻や2004年(平成16年)台風18号の強風被害を例とし、気象災害予測の技術的な難しさをご説明いただきました。

さらに、市民に災害情報を伝える上での様々な課題を示唆いただきました。1) 2003年(平成15年)台風10号の際に、送り手が的確に情報を発信していても、受け手の方では多量のFAXによる情報の洪水が発生し、混乱が起きた例や、2) 釧路の津波時における市民の避難率が低下した例より、情報の送り手は見逃しを避けるため警報等の空振りが増えてしまうために、受け手側が自分だけは大丈夫との誤った認識を持ってしまうことなどを解説いただきました。これらをふまえて、災害情報の受け手側には災害情報の分析判断力(災害情報リテラシー)の向上が、また、送り手側には、予測技術の向上も含めた気象情報の精度の向上と、平易な言葉でわかりやすく知らせる努力が必要であると提起されました。



図-1 松岡講師 講演資料

■講演 2 高木講師 講演概要

高木講師からは「北海道防災情報システムについて」と題し、北海道の防災情報伝達の取り組みを紹介いただきました。

まずは防災対応の専門家向けの情報システムの概要を解説いただき、気象庁からの地震や津波情報が自動的に FAX、メールで送信可能となったことで伝達時間が短縮されたこと、市町村単位で震度情報が出せるようになったことを紹介いただきました。

また、市民に向けた情報提供の取り組みとして開始された「北海道防災対策支援システム」を紹介いただきました。本システムは、各機関の防災情報のポータルサイトとして、インターネットを介してパソコンから防災情報入手できるだけでなく、携帯電話から登録手続きを行うことで、無料で災害関連情報を携帯メールに受信することが可能となるものです。テレビテロップと同等の早さで 30 万件に対して同時配信が可能となっております。

本システムへのメール登録方法については、右記アドレスにて詳細がわかります。ご確認頂き皆様にもぜひご活用下さい。なお各携帯電話の公式メニューからも「北海道防災情報.jp」としてアクセスが可能となっております。



図-2 高木講師 講演資料

北海道防災対策支援システム「北海道防災情報.JP」
パソコン <http://www2.bousai-hokkaido.jp/pc/>
携帯電話 <http://www.bousai-hokkaido.jp/mobile/>



■質疑応答

講演終了後、各講師の講演に対して活発な質問が行われました。松岡講師には、竜巻を予想する上で重要な技術であるドップラーレーダーについて、また大雨情報の的中確率向上に向けた技術進歩状況についての質問がありました。高木講師には、防災情報システムからの一般市民への情報伝達経路についての質問などがありました。

■Pe-CPD (e-learning システム) の紹介

セミナーの最後に、情報系部会森幹事より「Pe-CPD」の紹介と試行結果の説明がありました。「Pe-CPD」はインターネットを活用した e-learning システムです。札幌圏で開催される CPD 取得のための各種セミナーや講演への参加が困難な会員に対し、インターネットの web 上で学習機会を提供する事を目指し、現在試行中との紹介がありました。

■まとめ

今回のセミナーでは、インターネットなどの情報伝達システム技術の発達、防災活動に大きく寄与していることを実感しました。その一方で、伝えるコンテンツの質や情報を受け取る側のリテラシー向上などの課題がまだ残されていることにも考えさせられました。

防災セミナーの幹事は各部会持ち回りで担当することとなり、今回は水工系部会と情報部会との合同により開催いたしました。今回のセミナーが防災研究会第VI期活動の締めくくりとなり、2007年(平成19年)4月より防災研究会は、防災委員会として新たなスタートをきることとなります。

(文責：防災研究会 福岡博史)